



11月30日(木)の午後1時20分から千葉県文化会館にて、平成29年度「芸術鑑賞会」を行いました。今年度の芸術鑑賞会は、古典芸能鑑賞「学校寄席」でした。第一部「笑い」では、一龍斎貞橋(いちりゅうさい ていきつ)師匠による「講談」、三代目林家正楽(はやしや しょうらく)師匠による「色物(紙切り)」、八代目春風亭柳橋(しゅんぷうてい りゅうきょう)師匠による「落語」を鑑賞しました。休憩をはさみ、第二部「恐怖」では、人間国宝の六代目一龍斎貞水(いちりゅうさい ていすい)師匠による「立体怪談」を鑑賞しました。

各師匠の話術に引き込まれ、寄席の世界に浸った約2時間の芸術鑑賞会となりました。



学校寄席の楽しみ方について述べる荻野校長

### 第一部「笑い」

第一部の最初の演目は、一龍斎貞橋(いちりゅうさい ていきつ)師匠による「講談」でした。師匠は、講談の歴史を含め講談の楽しみ方について話されました。また、張り扇(講談師が釈台をたたいて調子をとるのに使う扇)の使い方に触れました。師匠が扇を釈台でたたくと、会場の生徒たちが拍手をする練習で、会場が一体となりました。その後、修羅場(演劇・講談などで、激しい戦いが演じられる場面)読みの講談となりました。内容は、五条大橋での牛若丸と弁慶の戦いの場面でした。



一龍斎貞橋(いちりゅうさい ていきつ)師匠による「講談」

第一部二番目の演目は、三代目林家正楽(はやしや しょうらく)師匠による「色物(紙切り)」でした。1枚の紙とはさみだけで作られる作品は、見るものを引き付け驚かせるものでした。最初に、3作品を短時間で完成させ披露していただきました。続いて、会場内の2名の生徒からお題を聴き、作品を短時間で完成させ披露していただきました。お題を出した2名の生徒は、完成作品をいただけるといううれしい演出をしていただきました。



林家正楽師匠による「色物(紙切り)」  
体を動かしながら1枚の紙をはさみで切り、作品を仕上げる速さに驚きました。



①「少年を乗せた馬」



②「相合傘」



③「浴衣を着て線香花火をする少女」

### 生徒リクエスト作品



①「お題：ゴジラ」と作品をいただく生徒



②「お題：美女と野獣」と作品をいただく生徒

